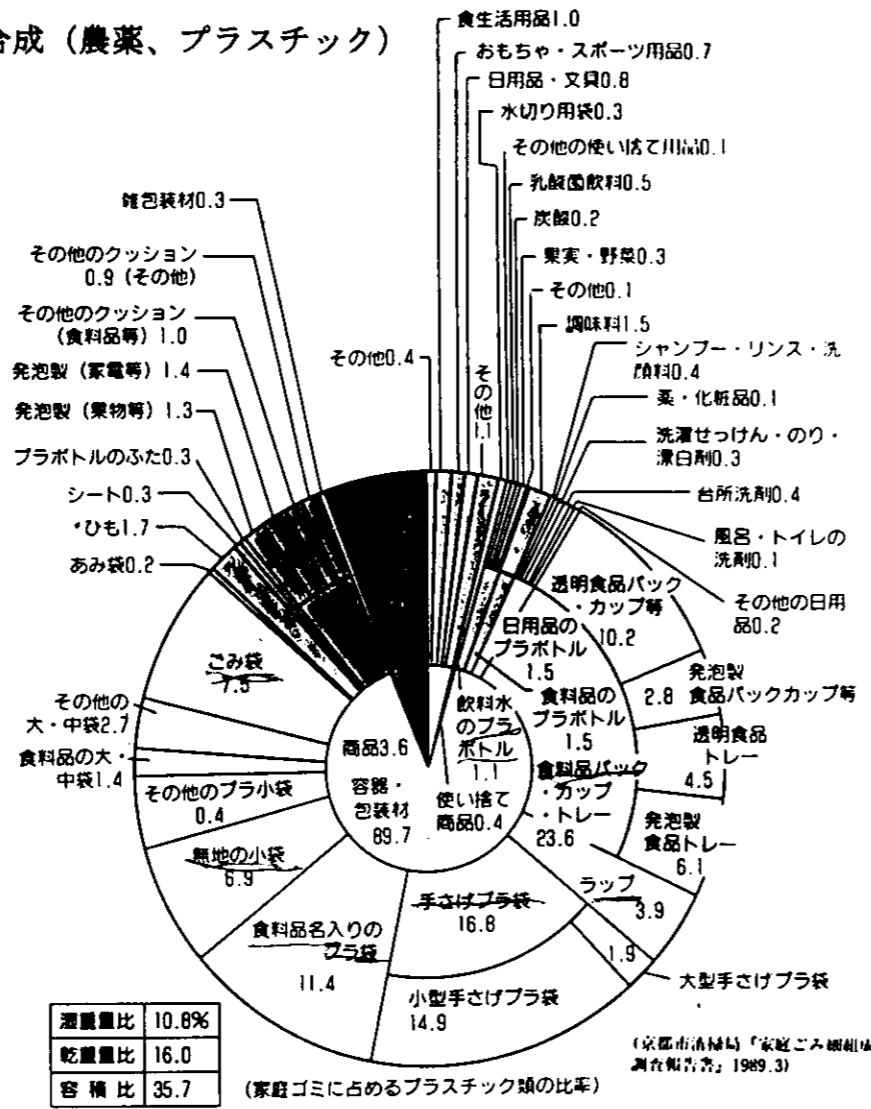


循環型社会をめざして

名古屋女子大学 八田耕吉

1. ゴミはなぜ出るのか

- 自然還元
- 自家処理
- 化学物質の合成 (農薬、プラスチック)



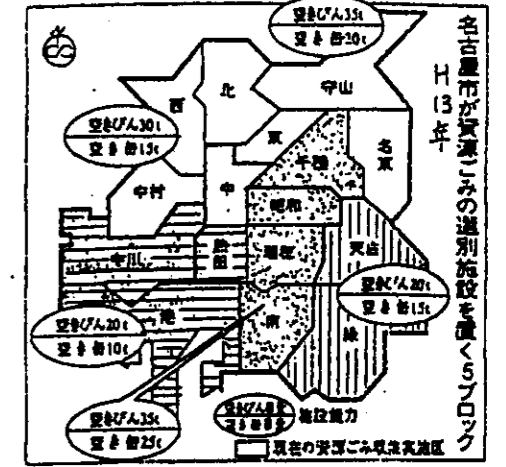
■一般廃棄物中の重金属

	カドミウム	鉛	亜鉛	クロム	ニッケル	ヒ素
年間排出量 (t)	11.3	447	2,080	167	11.8	19.2
主な寄与組成 (%)	プラスチック類 44.0 ゴム・皮革類 20.3 厨芥、繊維類 13.4	鉄類 37.4 紙類 16.5 繊維類 14.7	石・陶磁器類、雑物 42.0 紙類 16.4 ゴム・皮革類 15.9	鉄類 38.4 ゴム・皮革類 20.9 プラスチック類 14.3	石・陶磁器類、雑物 92.2 紙類 2.9 プラスチック類 1.4	非鉄金属、ガラス類 61.0 鉄類 30.1 紙類 2.7
町内ゴミ中重量 (%) (参考値)	1.92	65.3	236	14.3	0.21	1.45

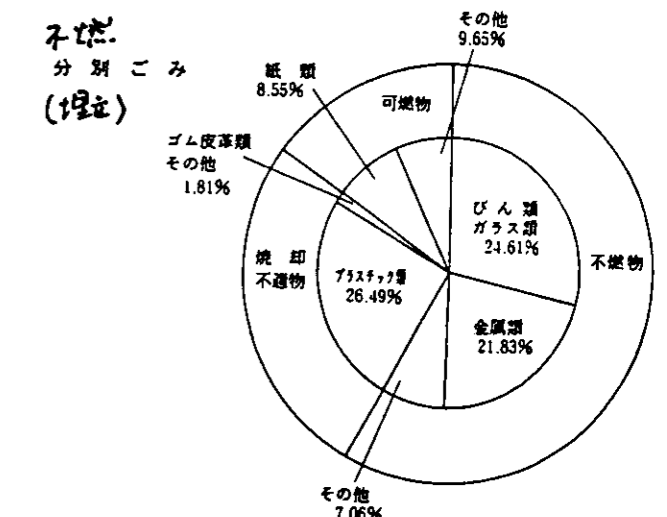
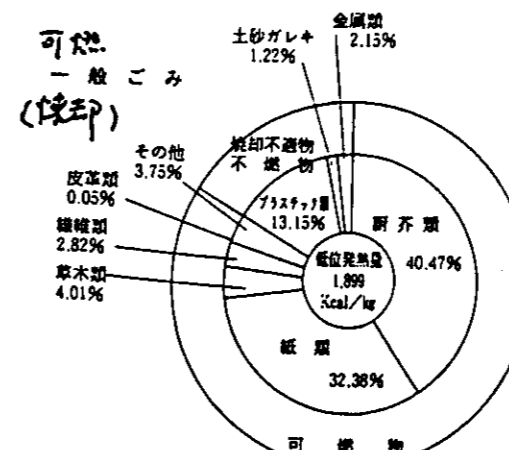
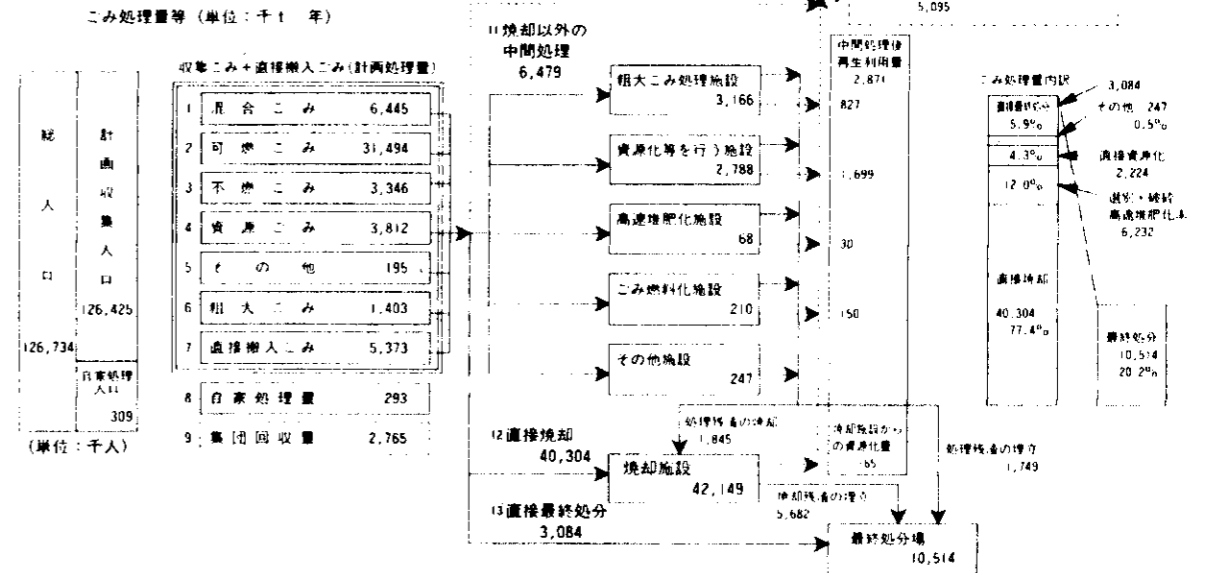
(1977年度 都庁) (ゴミ問題の焦点)

2. ゴミの分類

- 可燃ゴミと不燃ゴミ
- 一般廃棄物と産業廃棄物
- 有害廃棄物



ゴミ処理の状況

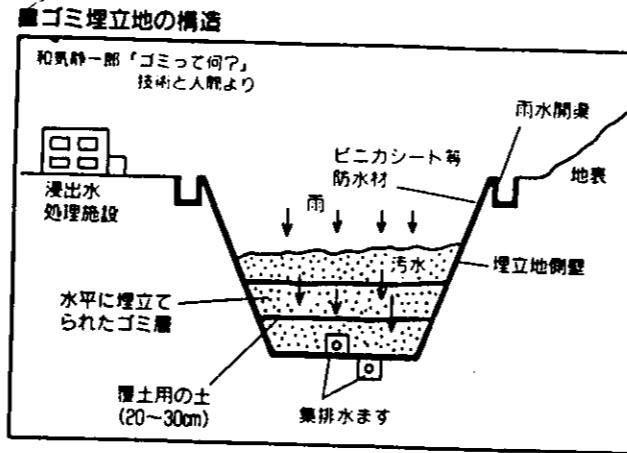
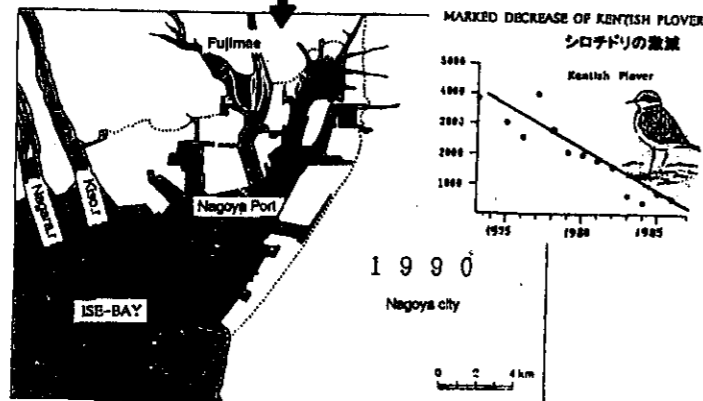
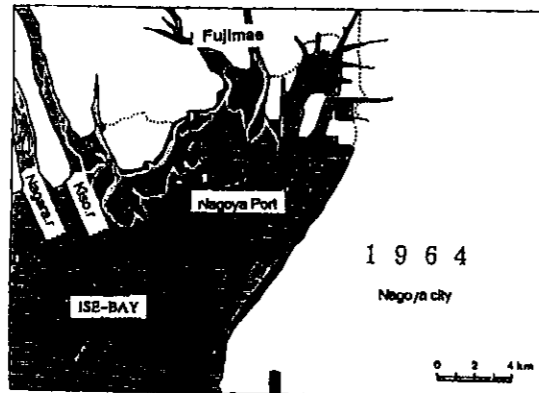


3. 名古屋市のゴミ 最終処分場問題

伊勢湾の干潟の喪失

1950年代に始まる名古屋港の臨海工業開発によって、
8000haの干潟浅海域が、4000haの埋立地に換えられた。

Lost of tidal flat in Ise-bay, JAPAN



4. ごみ減量作戦

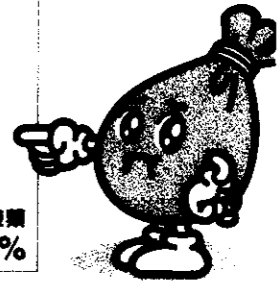
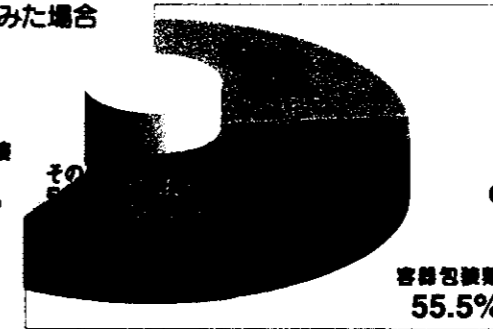
資源ごみ

有料化（事業系）と指定袋

一般廃棄物に占める容器包装廃棄物の割合

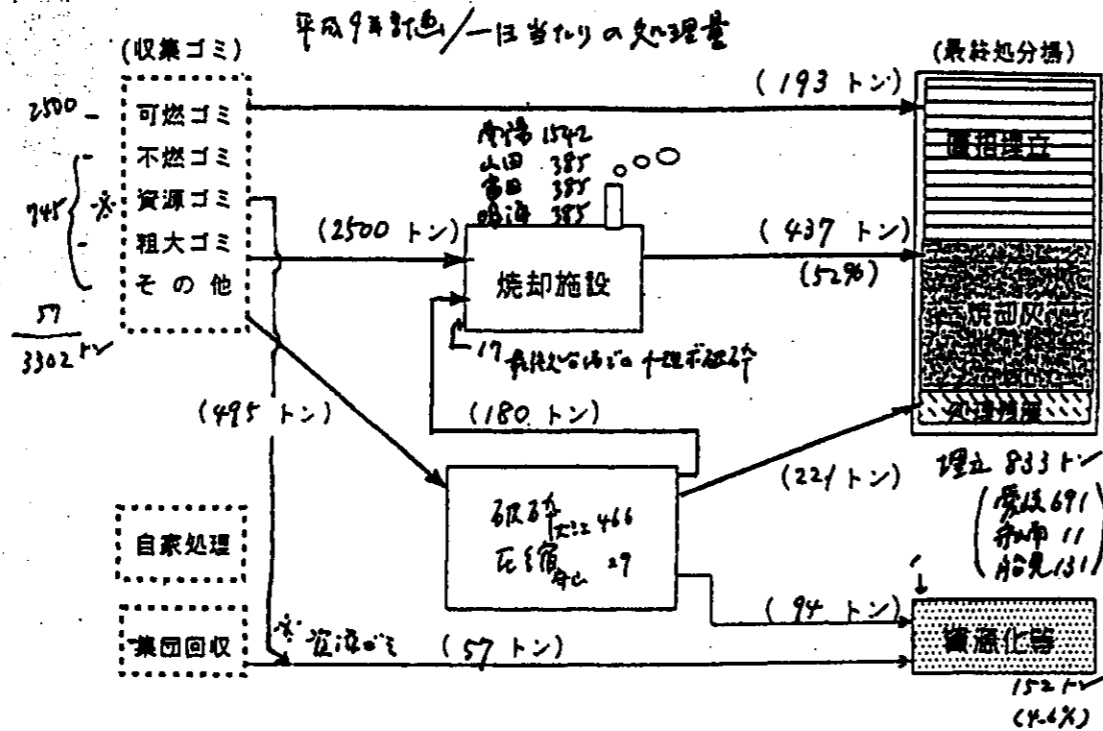
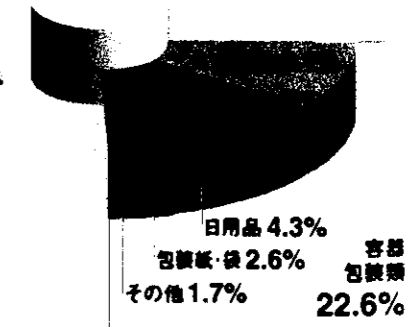
●容積でみた場合

容器包装
以外
44.5%



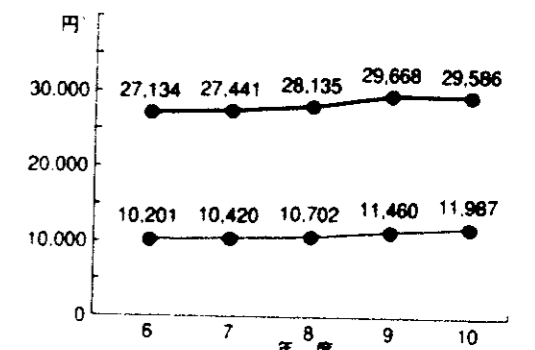
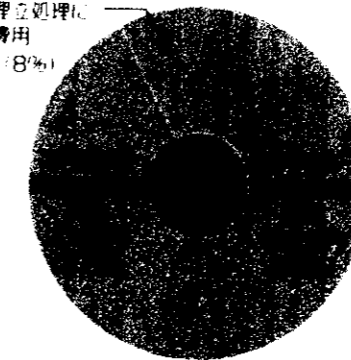
●重量でみた場合

容器包装以外
77.4%



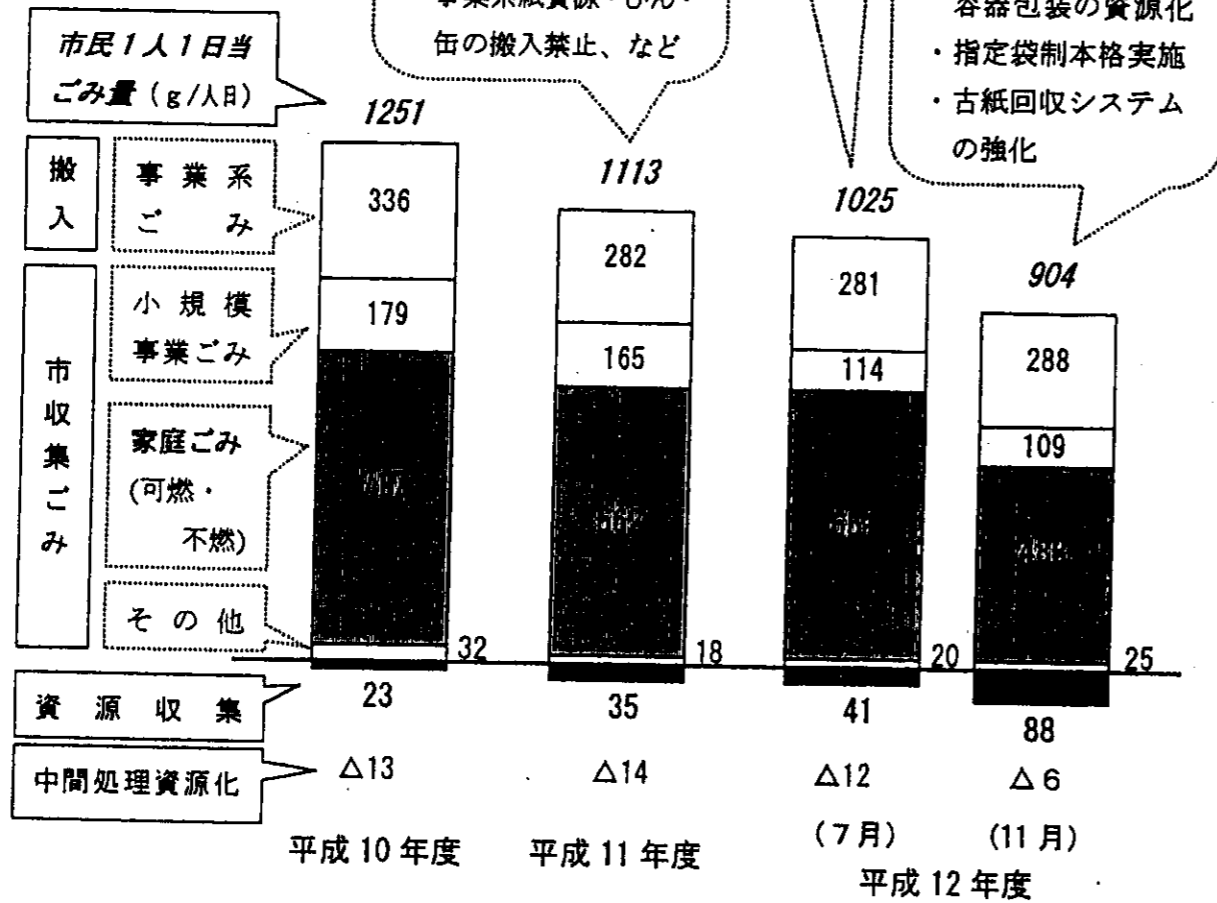
ごみ処理費用（施設整備費を除く）

ごみの埋立処理に
要する費用
64億円(8%)

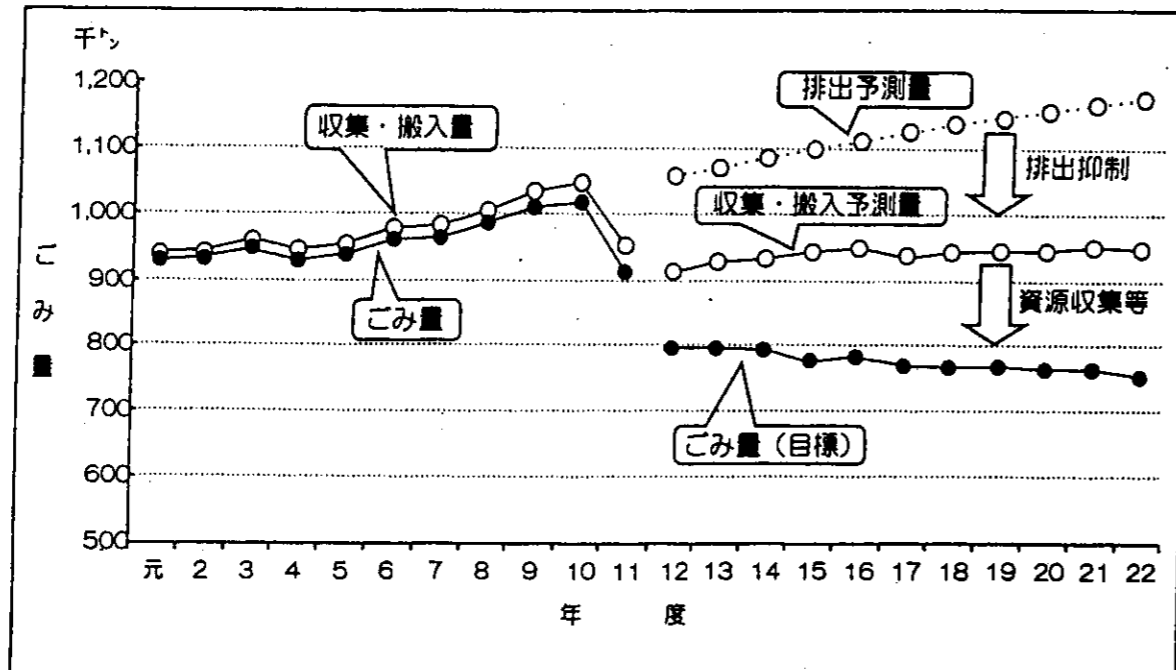


●ごみ1トン当たり 円 ●一人当たり 円
資料：環境部調べ

市民1人1日当
のごみ量の変化



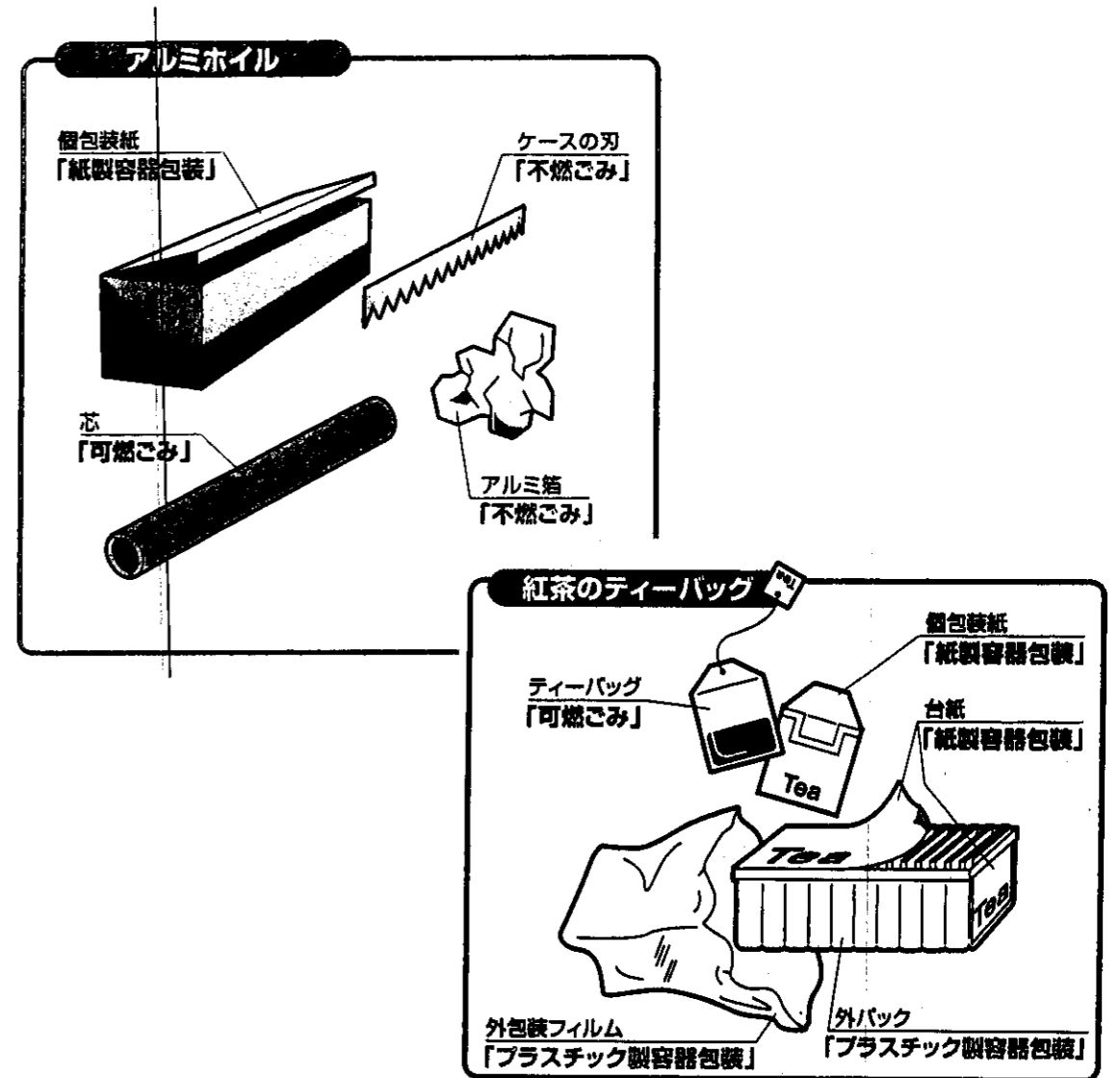
排出予測量とごみ量 (第2次名古屋市一般廃棄物処理基本計画)



5. 容器包装リサイクル法

排出者責任と生産者責任

製造物責任 (企業責任) と ISO (企業の環境活動の国際規格) 認証



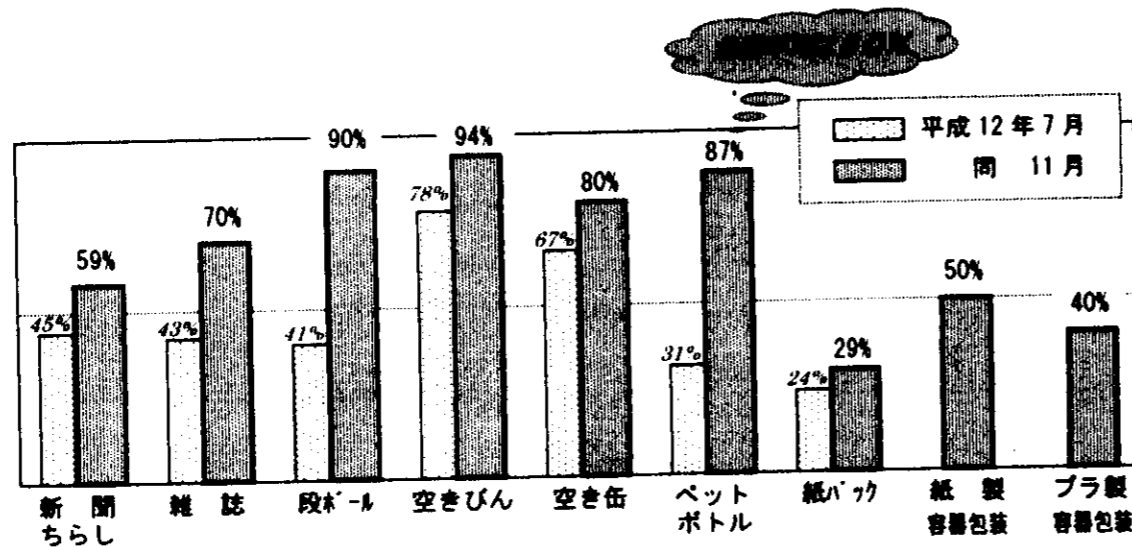
名古屋市のごみ処理・資源収集の原価（平成11年度）

	収集	中間処理 (焼却・破碎等)	最終処分 (埋立)	自治体負担 の合計	特定事業者 の負担
市収集ごみ				58円/kg	—
可燃ごみ	32円/kg	20円/kg	2円/kg	54円/kg	—
不燃ごみ	32円/kg	45円/kg	7円/kg	84円/kg	—

	収集	選別・梱包等	再商品化経費 の一部負担	自治体負担 の合計	特定事業者 の負担
資源収集				93円/kg	—
空きびん	84円/kg	—	—	84円/kg	—
空き缶	109円/kg	—	—	109円/kg	—
紙パック	68円/kg	22円/kg	—	90円/kg	—
ペットボトル	64円/kg	43円/kg	5円/kg	112円/kg	81円/kg

ごみ処理のコストは？

	処理原価 (平成11年度)	(内訳)			事業系ごみ処理手数料 (平成13年度現在)
		収集	焼却・破碎等	埋立	
市収集ごみ	55円/kg	28円/kg	24円/kg	3円/kg	45L指定袋1袋 189円 10L指定袋1袋 42円 (30円/kg)
可燃ごみ	50	28	20	2	
不燃ごみ	80	28	45	7	
搬入ごみ	23円/kg	—円/kg	19円/kg	4円/kg	
可燃ごみ	22	—	20	2	10円/kg
不燃(破碎処理)	67	—	63	4	
不燃(直接埋立)	13	—	—	13	



6. グリーン・コンシューマー (かしこい消費者)
 リサイクル (再利用) とリユース (再使用)
 ゴミ発生抑制 (断る、選ぶ)
 生ゴミの堆肥化

「大量リサイクルによる使い捨ての固定・拡大」を防ぐには…

	20世紀=使い捨て社会 (市場の外部で、コストを負担)	21世紀=循環型社会 (静脈コストを、市場に内部化)
コストの負担	市町村が、収集・選別コストを負担。 (市民が、税金によって負担)	事業者が、静脈コストの全てを負担。 (消費者が、最終的に負担)
評価	<ul style="list-style-type: none"> 資源化に取り組む市町村(市民)の負担が、重くなる。 静脈コストが、商品価格に反映されない。(使い捨ての固定) 生産・流通段階での動機づけが、働きにくい。(使い捨ての固定) 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者が、消費量に応じて負担。 静脈コストが、商品価格に反映。(環境負荷の低い商品が有利に) 生産・流通段階で、使い捨て抑制の動機づけが働く。

